

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ＞
雌阿寒岳では、9月11日以降、火山性地震の増加や傾斜変動を伴う火山性微動の発生、噴気の増加や火口内の温度上昇等、火山活動の活発化を示唆する現象が観測されています。

今後、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があることから、本日（15日）15時20分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項】

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

雌阿寒岳では、本日（15日）実施した現地調査により、ポンマチネシリ火口内及びその近傍にごくわずかな火山灰の堆積を確認しました。

また、ポンマチネシリ96-1火口では、複数の噴気孔から勢い良く噴気を噴出しており、10日に実施した現地調査時に比べ、新たな噴気孔の形成や火口内の温度が上昇していることも確認しました。

15日15時現在ポンマチネシリ96-1火口の噴気は、火口縁上約100mの高さまで上がり東から北東に流れており、引き続き平常時に比べ噴気の量が多い状態で経過しています。

12日14時40分頃の火山性微動に伴い発生した、火口方向が上がる規模の大きな傾斜変動は、その後も引き続き緩やかに継続しています。

11日15時頃からやや活発となっているポンマチネシリ火口付近の地震活動は、引き続き増減を繰り返しながら継続しています。

○活動評価

雌阿寒岳では、火山活動が活発になっており、今後、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています

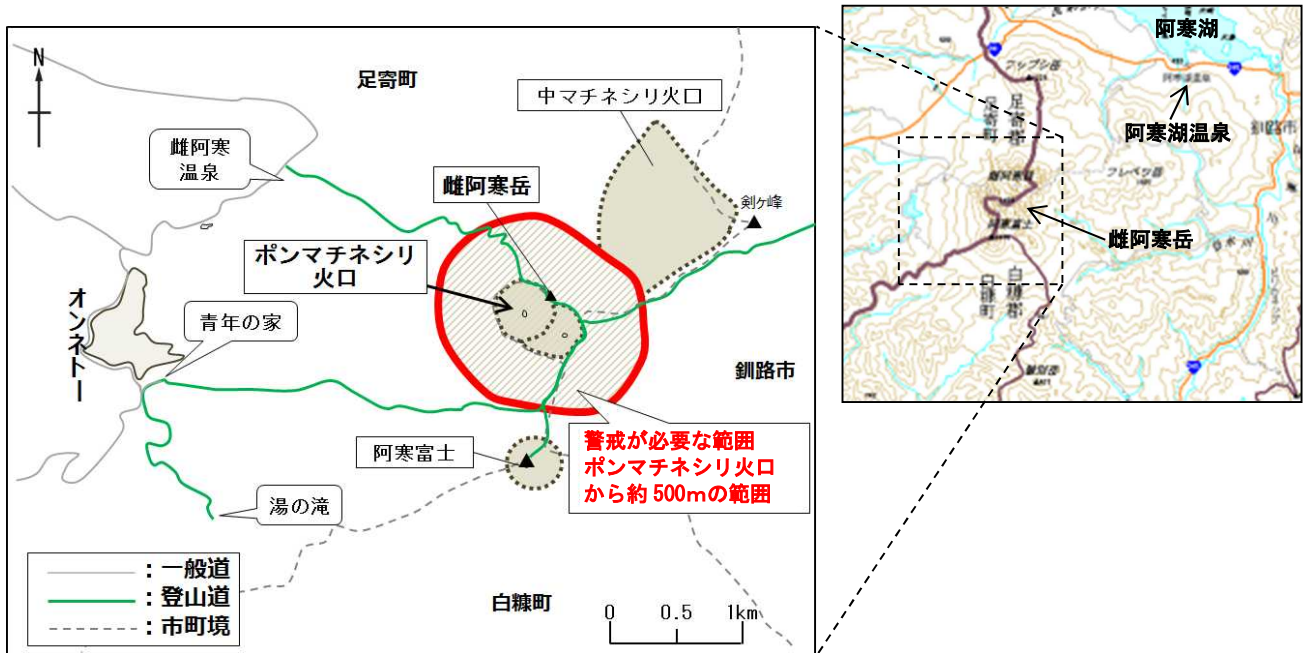


図1 雌阿寒岳 警戒が必要な範囲

- ・ ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

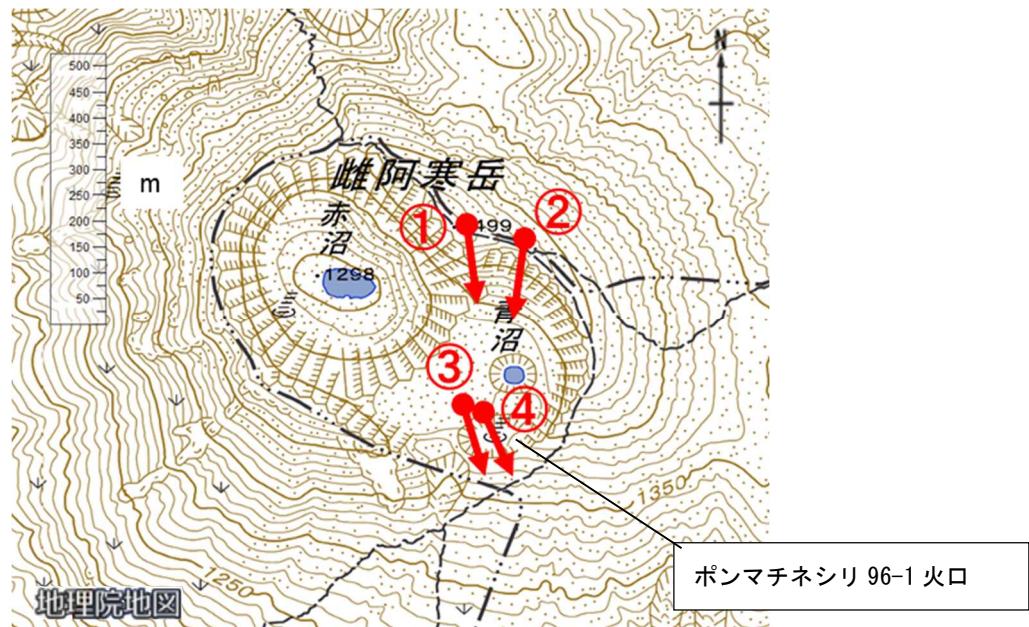


図2 雌阿寒岳 写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図3 雌阿寒岳 ポンマチネシリ火口内の状況及び火口近傍に堆積した火山灰の様子
上左：図2の①から撮影、上右：図2の②から撮影、下：火口近傍に堆積した火山灰の様子
・ポンマチネシリ火口内及びその近傍にごくわずかな火山灰の堆積を確認しました。

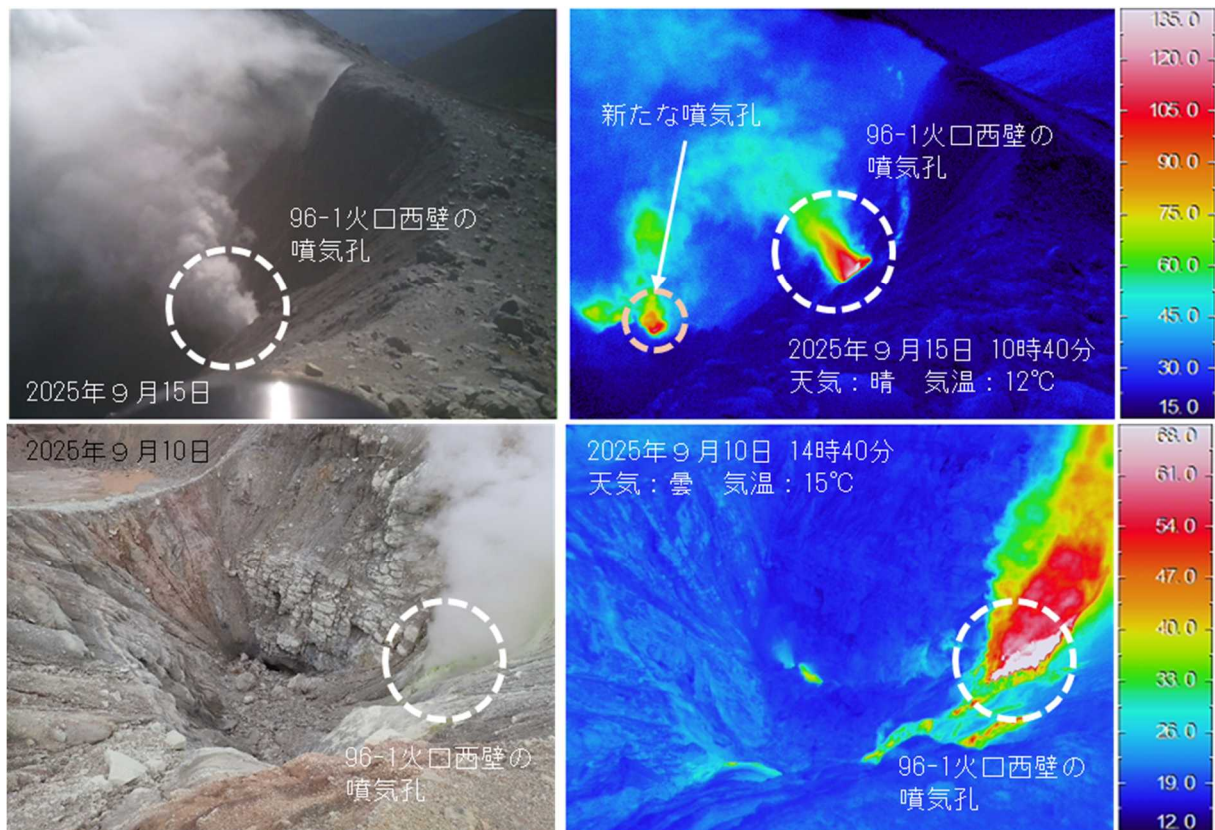


図4 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ 96-1 火口の地表面温度分布

上：図2の③から撮影、下：図2の④から撮影

- ・10日に実施した現地調査時に比べ、新たな噴気孔の形成や火口内の温度が上昇していることを確認しました。



図5 雌阿寒岳 南東側から見たポンマチネシリ火口の状況

(9月15日15時00分頃、^{かみてしべつ}上徹別監視カメラによる)

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口の噴気は、火口縁上約 100m の高さまで上がり東から北東に流れており、引き続き平常時に比べ噴気の量が多い状態で経過しています。

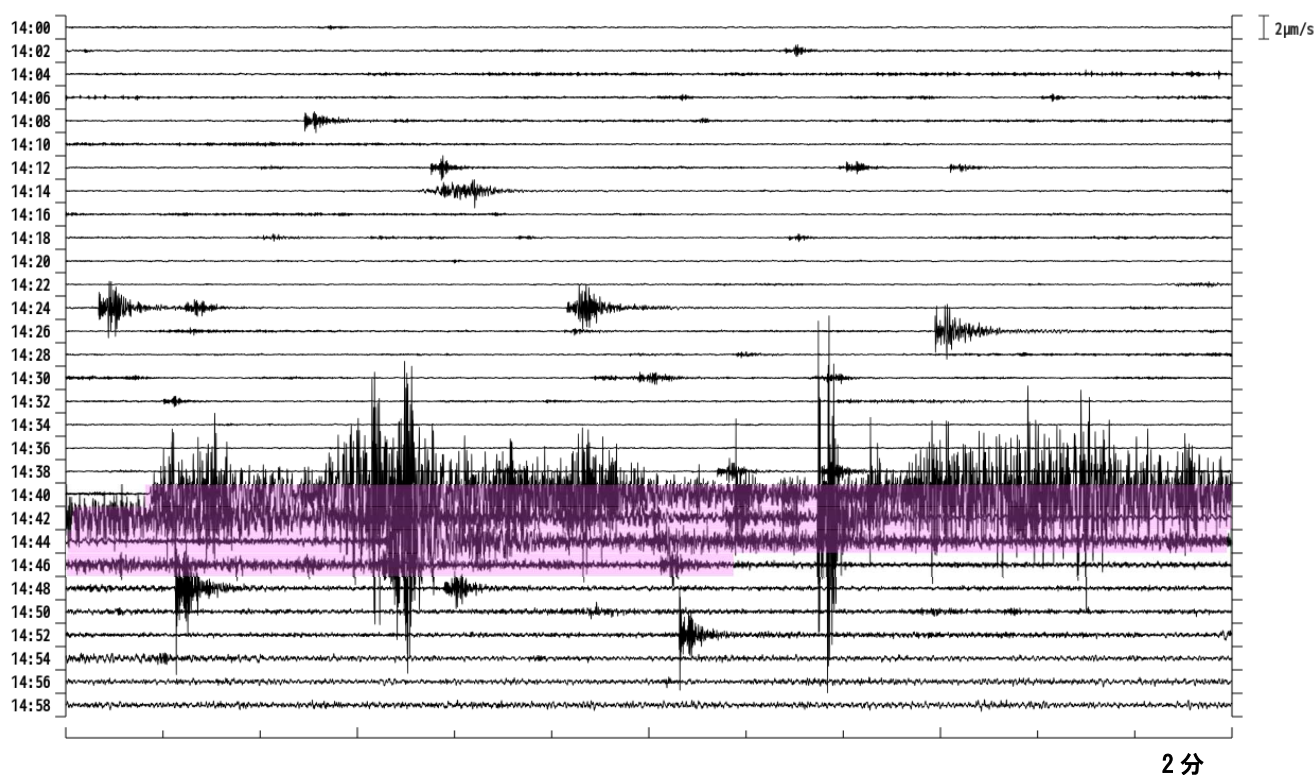


図6 雌阿寒岳 オンネトー南東観測点の上下速度波形（9月12日14時～15時）

■：火山性微動

12日14時40分頃の火山性微動

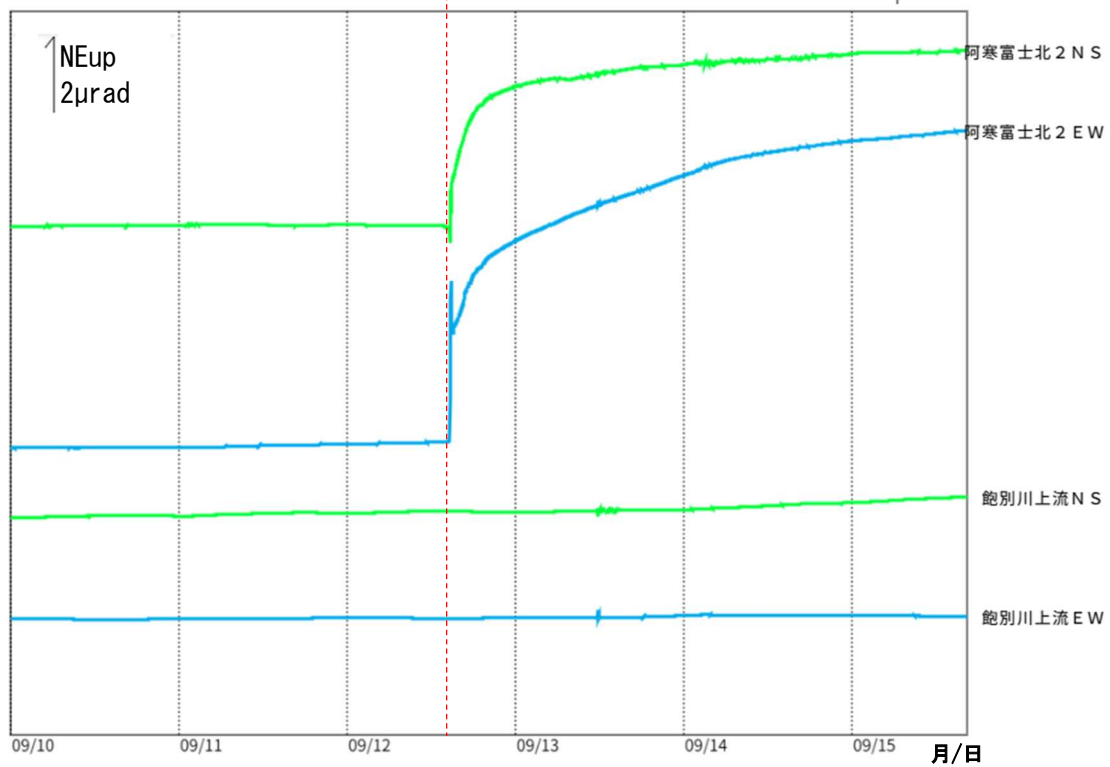


図7 雌阿寒岳 傾斜変動の状況（2025年9月10日00時～15日15時）

- ・12日14時40分頃の火山性微動に伴い発生した、火口方向が上がる規模の大きな傾斜変動は、その後も引き続き緩やかに継続しています。

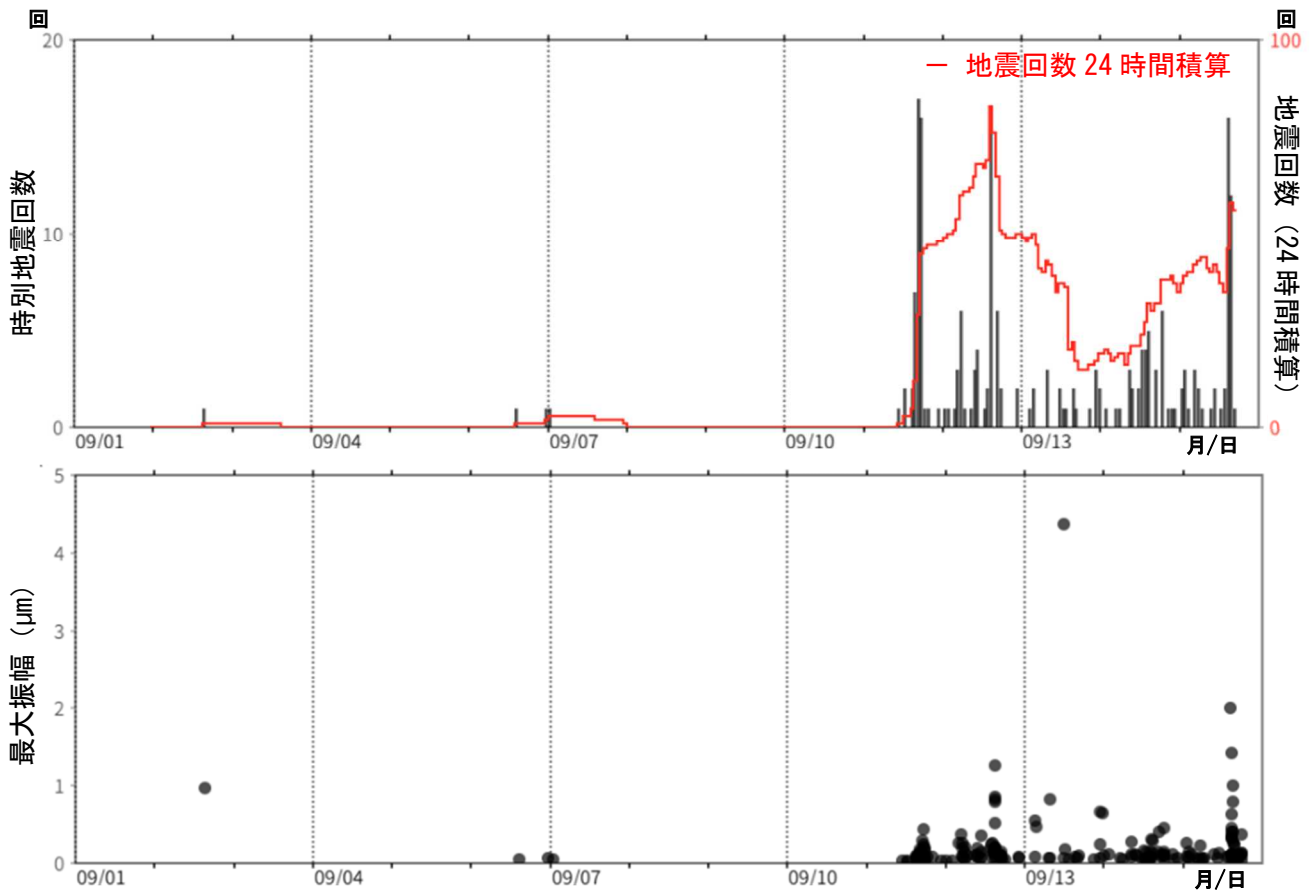


図8 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2025年9月1日00時～15日15時）

上：特別地震回数（速報値） 下：オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅

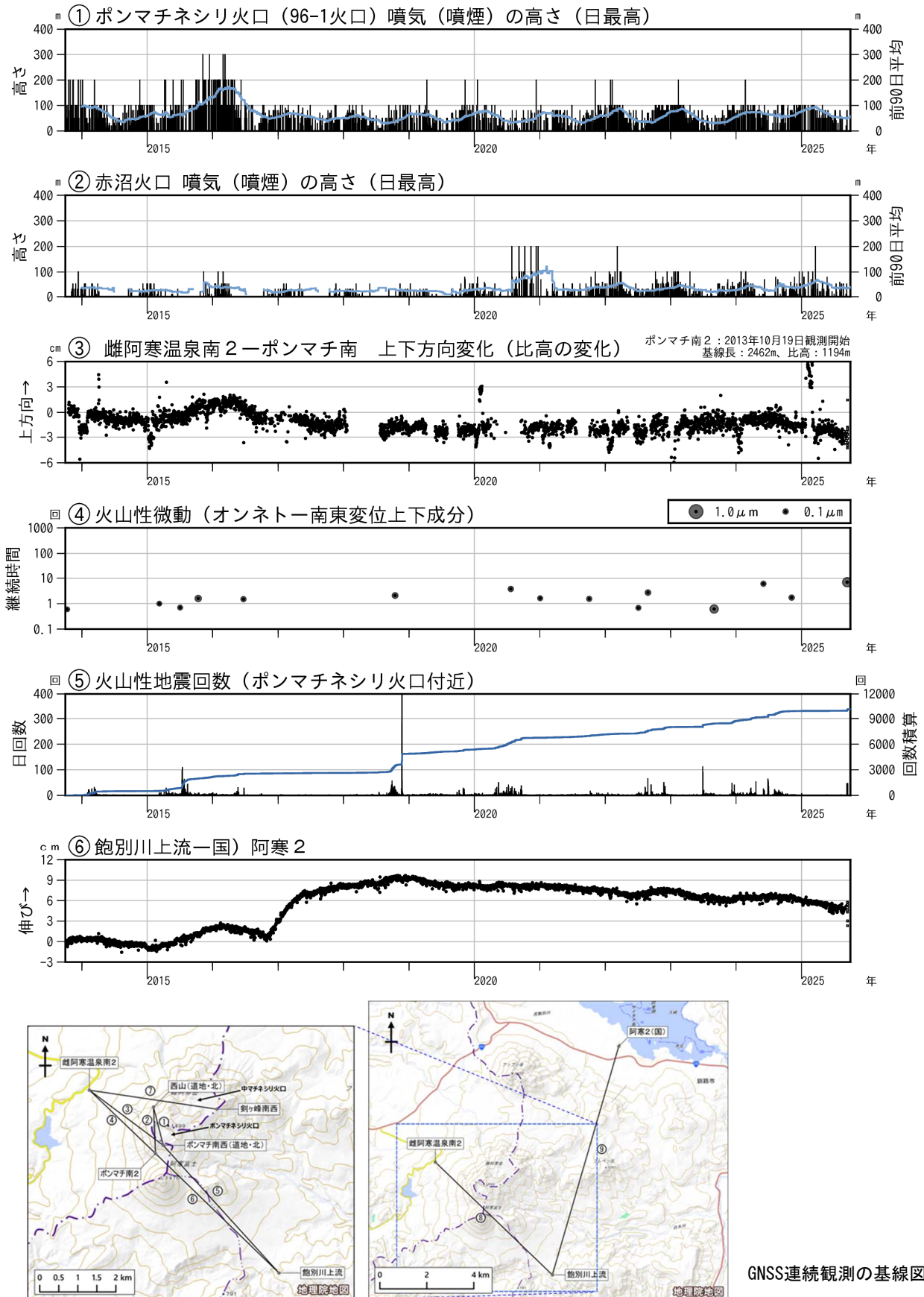


図9 雌阿寒岳 活動経過図 (2013年10月~2025年9月14日)

- ・各火口の位置は図2を参照してください。
- ・グラフ③⑥は、GNSS連続観測の基線図の基線④⑨に対応しています。

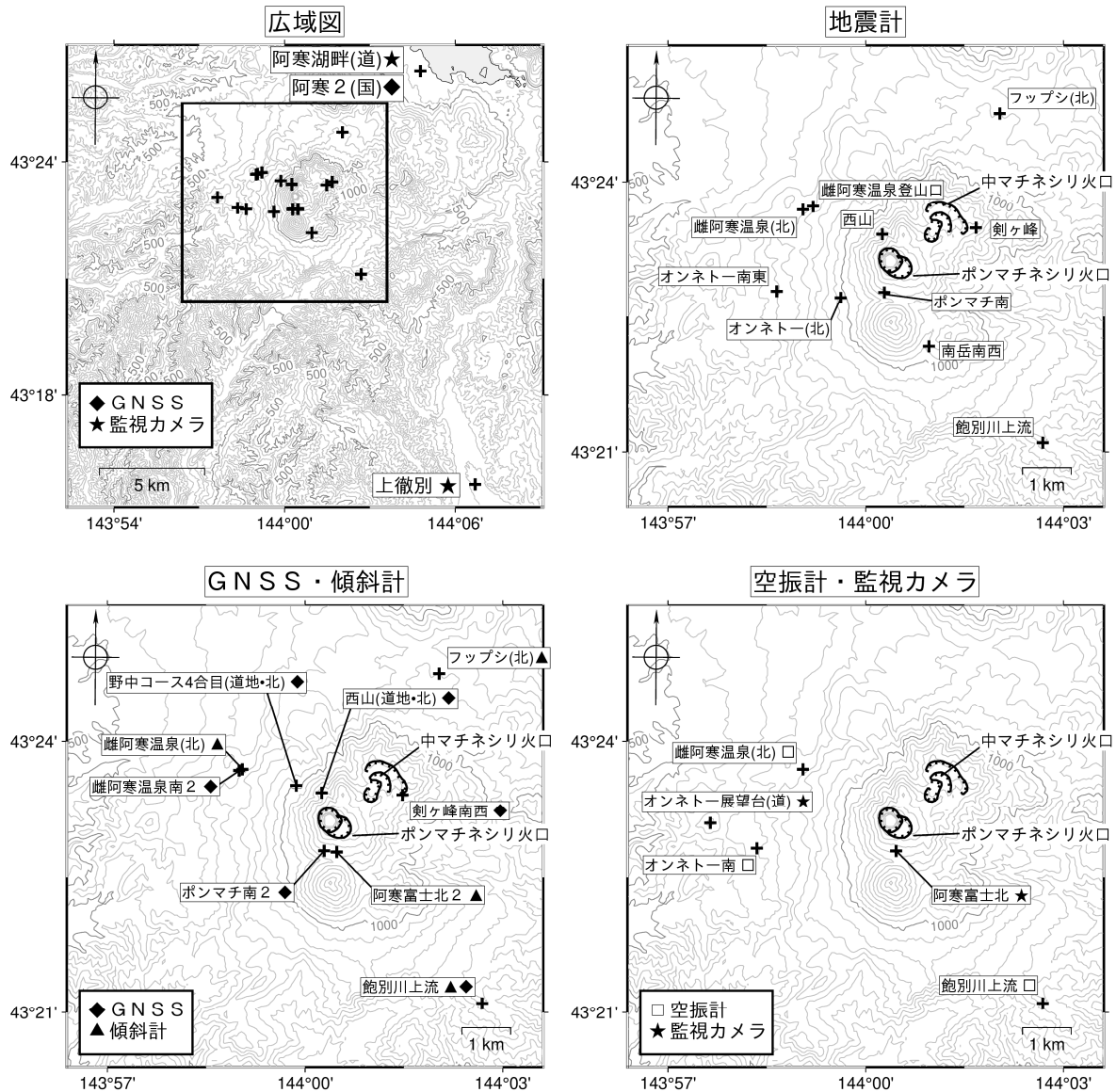


図10 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道
(道地)：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所